

東京都地方独立行政法人評価委員会 平成18年度第2回試験研究分科会

1. 日時：平成18年5月11日（木） 10時00分から11時15分まで
2. 場所：東京都庁第一庁舎42階北側 特別会議室C
3. 出席者：板生委員、井上委員、泉澤委員、管野委員、鞠谷委員
4. 議題：1 審議事項 (1) 中期計画(案)について
2 報告事項 (1) 年度計画(案)について
(2) 東京都の産業支援体制の再整備に係る基本構想について
3 その他

5. 議事概要：

1 (1) 中期計画(案)について

事務局より、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの中期計画(案)について説明。

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

- ・ ものづくりというところにはかなり限定したように見えるが、中小企業の活動はものづくり以外にもたくさんある。これはものづくりを中心にとすることで、それを強調したという意味合いか？

ご指摘のとおりである。サービス業に関連するものも対応できるものについては基盤技術として対応していく。なお表現については、前回「基盤技術とは何かがよくわからない」という意見があったので「ものづくりに関する基盤技術」とした。

- ・ 東京の特徴を生かした試験研究機関らしさというものを全面的に打ち出した文言・内容にしたほうがよいのでは？

東京には多種多様な産業が集積しており、様々な産業分野にまたがる都内中小企業の方々を広く支援していくことが産技研の使命であると認識している。ある特定分野の集中的な取組はこういった産技研の使命になじみにくいと考えている。そのような中で、今回の独法化を機にデザイン、環境、IT、精密加工など東京の産業を特徴的に表す技術分野においては重点的に取組んでいくというような考えを中期計画に記載したところである。このようなことから、現在の計画内容でご了承いただきたい。

その後は特に質問・意見は出ず、原案で了承され評価委員会に報告することを承認。

(2) 年度計画(案)について

事務局より、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの年度計画(案)につ

いて説明。

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

- ・ 独法化して様々なことを計画してやっていく際に、それぞれの職員がどの仕事にどれだけの時間を割くか、そういったいわゆる工数管理が課題となる気がするが、何か具体的の方策は考えているか？

グループごとに目標設定をして、その中で成果を出してもらい、それぞれのタイムシェアはグループごとに任せている。それを管理するためのものは今の所考えていない。目標については、グループによって、研究の強いところ、依頼試験の強いところなど差があるので、これまでの実績等を勘案の上設定している。ただセンターの方針としてなるべくアンバランスにならないようにしてもらっている。

- ・ 職員は基本的にフレックスではなく定時で働くことになるのか？

フレックスではなく一日8時間の時間を割り振っている。

- ・ 独法化に伴い、基盤研究や都民へのサービスなどに、理事長の意向を反映できるよう柔軟になったと思うか？

制度上は非常に柔軟になり、都民のニーズに迅速な対応が出来るようになった。

- ・ 基盤研究のテーマ分布は大分変わったのか？

新しい分野にシフトしようという意図で、大幅なテーマの変更を行った。特に重点分野については、内容も以前に比べて大きく変わった。

- ・ 新しい研究員がかなり自由に採用できるようになったことで大幅なテーマの組み換えのようなことが起こってくるのか？

研究センターの目標は、高度な技術、世界的な技術を開発するというよりは、開発された世界的な先端技術を中小企業の製品化のために翻訳することだと考えている。採用も純粋な学究肌の人よりも技術を転換する能力のある人を選考基準において採用している。そういった状況を踏まえたテーマ設定である。

- ・ 法人倫理の問題で、内部のコンプライアンス関係の違反や疑義のある行為についていかにトップに上がる仕組みになっているか。必ず情報が上がる仕組みをつくってほしい。

ご指摘の点に十分配慮し、都民から不審や疑念を招くことのないよう適法かつ適切な業務運営を行っていく。

- ・ ものづくり基盤技術分野には何が含まれているのか？また、ものづくり基盤技術分野は国の主要な政策にもなっており国と協調してどのようにやっていくのか？

ものづくり基盤技術分野は重点7分野以外の評価技術、分析技術、あるいは試験

に関連する技術というものを含んだテーマである。国はメッキ技術、切削、鑄造技術等の基盤技術の強化を進めているが、この国の動向も考慮した上で13テーマを設定している。

- ・ 国はものづくりの基盤技術について中小企業の横の連携を強くする仕組みを作ったが、今の国の施策を使うのはなかなか難しい。それをうまく活用する仕組みを構築し、コーディネートしてあげられれば良いと思う。

国の施策が最終的に決まったのは2,3週間前で、それまでは計画に盛り込む事は出来なかった。これから何らかの形で中小企業の方がそれぞれのテーマに参画できるよう産技研として検討していきたい。

- ・ 産技研の役割は、都民、中小企業の役に立つ技術を展開することであり、その目標・目的が明確になった研究を進めてほしい。

研究開発後本当に製品化するのか、相手の企業が待っているのかという事をヒアリングした上でテーマを設定し、研究を進めていくことにしている。

- ・ 技術相談に関してセキュリティ保持を明確化したのは良い提案である。産学公連携等で様々な共同研究が立ち上がると秘密保持契約、共同研究契約など契約書を多く取り交わすことになる。その辺は体制として十分整っているか？

個人任せということではなく、組織としてきちんと体制を整備した上で対応していく。

(3) 東京都の産業支援体制の再整備に係る基本構想について

事務局より、東京都の産業支援体制の再整備に係る基本構想について説明。

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

- ・ 移転の前後は大変だと思うが、どのように対処するかというのは考えているか？

新しい施設を作るので、短期間に効率よく移転して、中小企業へのサービスが低下しないよう配慮していく。